

保育士養成課程におけるソーシャルワーク教育の必要性

ー教科目「社会福祉」の教授内容の検討ー

吉原 直樹

広島都市学園大学 子ども教育学部

要 旨

近年、子ども・子育て家庭をめぐる環境が大きく変化し、保育士の専門性がさらに求められている。保育士の勤務先も多様化し、ソーシャルワークの技術を身につけることの必要性は増している。しかし、保育士養成においてはソーシャルワーク教育の機会が減少していると指摘されることもある。本研究では、保育士養成の制定当初から設置されている、ソーシャルワーク系科目の変遷を整理し考察した。教科目名称の変更はあるが、教授内容では、子ども家庭支援や相談援助などの保育士に必要なソーシャルワーク教育は行われていることが確認できた。また、筆者が担当する教科目「社会福祉」では、相談援助（ソーシャルワーク）の基礎の教授、他科目と連動したソーシャルワーク教育を行う必要がある。

キーワード：保育士養成，ソーシャルワーク，子ども家庭支援，相談援助，社会福祉

1 はじめに

近年、核家族化の進行、子ども・子育て家庭と地域社会とのつながりの希薄化、家族問題の多様化・複雑化により、子ども・子育て家庭をめぐる環境は大きく変化している。また、子ども虐待に関する相談件数も増加の一途をたどっており、大きな社会問題となっている。保育士も、保育所に限らず、児童福祉施設や児童相談所などにも配置され、保育士の勤務先は多様に存在する。このような中、保育士にとってソーシャルワークの技術を身につけることの必要性は以前に増して高まっていると考えられる。保育士の養成が始まり、資格の専門性が問われる中で養成課程の教育課程（以下カリキュラム）は変遷をたどってきた。根本的に保育士は社会福祉専門職として位置付けられており、対人援助に関する専門性を有した資格であり、ソーシャルワークの技術は必要であると考えられる。しかし、保育士養成に関してはカリキュラムの変遷において、ソーシャルワーク教育の機会が減っていると指摘されることもある。

本研究では、保母養成課程から現行の保育士養成課程におけるソーシャルワーク系科目の変遷を整理し、保育士養成課程におけるソーシャルワーク教育の必要性について考察する。さらに、保育士養成において、筆者が担当しているソーシャルワーク系科目「社会福祉」の教授内容について検討をする。

2 ソーシャルワークとは

ソーシャルワーク（social work）は広辞苑によると、「社会福祉活動。また、それに関する知識と技術の体系」とされている。また、日本ソーシャルワーカー協会では、『ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学、および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。¹⁾』とされている。

3 保母養成カリキュラムの変遷

1948（昭和23）年の児童福祉法施行令により保母（現在の保育士）が「児童福祉施設において児童の保育に従事する女子」と規定された。同令では、保母の要件を、①厚生大臣の指定する保母を養成する学校その他の施設を卒業した者、②保母試験に合格した者、③児童福祉事業に5年以上従事した者であって、厚生大臣が特に適当と認識した者としている。保母養成課程は、同年、厚生省児童局長通知第105号「保母養成施設の設置及び運営に関する件」に示されたものが始まりである。保母養成開始時の学科目及び配当時間数を表1に示す²⁾。ソーシャルワーク系科目では、社会事業一般、ケースワーク、グループワークが挙げられる。

表1. 保母養成開始時のカリキュラム

科目名	時間数	科目名	時間数
倫理	40	グループワーク	40
教育学及び教育心理学	40	自然研究及び社会研究	80
保育理論	160	音楽	200
児童心理学及び精神衛生学	150	リズム	80
生理学及び保健衛生学	80	遊戯	80
栄養学	40	お話	40
育児法	40	絵画	40
小児病学	40	制作	40
看護学	40	英語	40
社会事業一般	40	児童福祉に関する法令	特別講義
ケースワーク	40	計	1,350

（注）他に、保育、育児、看護、教護、栄養、音楽、遊戯、絵画、制作等に関する実習がある
（平成21年「保育士養成課程の見直しの経緯」を基に筆者作成）

その後、1952（昭和27）年の改定では必修科目と選択科目の区分が設けられた。ソーシャルワーク系科目では、ケースワーク、グループワーク、ケースワーク実習を必修科目とし、選択科目にグループワーク実習、コミュニティーオーガニゼーションが加えられた。1962（昭和37）年の改定では専門科目を6つの系列に分類整理し、福祉系列の科目として、社

会福祉，児童福祉，ケースワーク，グループワークが位置づけられた。1970（昭和45）年の改定で，社会福祉が社会福祉Ⅰ（講義）と社会福祉Ⅱ（演習）に分けられた。ケースワーク，グループワーク及びコミュニティオーガニゼーションは社会福祉Ⅱ（演習）とされた。1991（平成3）年には，専門科目を5つの系列に分類整理され，社会福祉Ⅰ，社会福祉Ⅱは「保育の本質・目的の理解に関する科目」として位置づけられた^{3) 4)}。

4 保育士養成カリキュラムの変遷

2001（平成13）年の児童福祉法改正に伴い，保育士資格が法定化された。保育士の定義を「専門的知識及び技術をもって，児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」とし，保護者に対しても保育に関する指導を行うことが明記された。これを受け，保育士養成課程の見直しが行われ，「社会福祉Ⅰ（講義）」は「社会福祉（講義）」に，「社会福祉Ⅱ（演習）」は，ソーシャルワーク的機能を学ぶため「社会福祉援助技術（演習）」に変更された。保育士に，社会福祉援助技術の実践が求められたのである。また，家族を取り巻く環境の変化等を踏まえ，保育士に求められる家族援助や保護者支援のスキルの修得を目的に，「家族援助論（講義）」が新設され，保護者等への子育て支援を体系的に学ぶ必要があるとされた。鈴木は，これらの背景には，『社会福祉基礎構造改革のもと，2000（平成12）年に行われた社会事業法から社会福祉法への法改正の成立によって，保育士資格が社会福祉専門職として位置づけられ，社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士と同様に，社会福祉援助技術実践を理解する必要があるとされたことも加えられる⁵⁾』としている。この改正により，保育士資格は社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士と同様に社会福祉専門職として位置づけられたのである。当時の保育士養成課程のカリキュラムを表2に示す⁶⁾。

表2. 保育士養成開始時のカリキュラム

科目名	単位数	科目名	単位数
＜教養科目＞		＜必修科目＞	
外国語（演習）	2以上	小児栄養（演習）	2
体育（講義）	1	精神保健（講義）	2
体育（実技）	1	家族援助論（講義）	2
その他	6以上	保育内容（演習）	6
＜必修科目＞		乳児保育（演習）	2
社会福祉（講義）	2	障害児保育（演習）	1
社会福祉援助技術（演習）	2	養護内容（演習）	1
児童福祉（講義）	2	基礎技能（演習）	4
保育原理（講義）	4	保育実習（実習）	5
養護原理（講義）	2	総合演習（演習）	2
教育原理（講義）	2	＜選択必修科目＞	
発達心理学（講義）	2	保育に関する科目	17以上
教育心理学（講義）	2	保育実習ⅡまたはⅢ（実習）	2
小児保健（講義・実習）	5	計	79以上

単位数は設置単位数

（平成22年「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」を基に筆者作成）

2010（平成22）年の改定で、「社会福祉援助技術（演習2単位）」は、「相談援助（演習1単位）」に変更された。社会福祉士等の養成において、「社会福祉援助技術」が「相談援助」に改められたことを踏まえるとともに、保育との関連で相談援助の内容や方法について学ぶことが重要であるとされたものである。また、家庭、地域などを視野に入れた支援の在り方や支援体制についての理解が必要となってきたことから、「家族援助論」は「家庭支援論」に名称の変更がされた。さらに、「保護者に対する保育に関する指導」（児童福祉法第18条の4）について具体的に学ぶことの重要性から、「保育相談支援（演習1単位）」が新設された。「保育相談支援（演習）」では、保育所保育指針第六章（「保護者に対する支援に関するもの」）の内容を踏まえ、保育実践に活用され、応用される相談支援の内容と方法を学ぶとされた。また、「相談援助」、「家庭支援論」等の科目との関連性や整合性に配慮することが必要であるとされている⁷⁾。

5 保育士養成課程の現行のカリキュラム

2018（平成30）年の保育士養成課程の見直しで、乳児保育の充実、幼児教育を行う施設としての保育の実践、「養護」の視点を踏まえた実践力の向上、子どもの育ちや家庭への支援の充実、社会的養護や障害児保育の充実、保育者としての資質・専門性の向上の6点の重点項目が示され関連科目の見直しがされた（図1）。

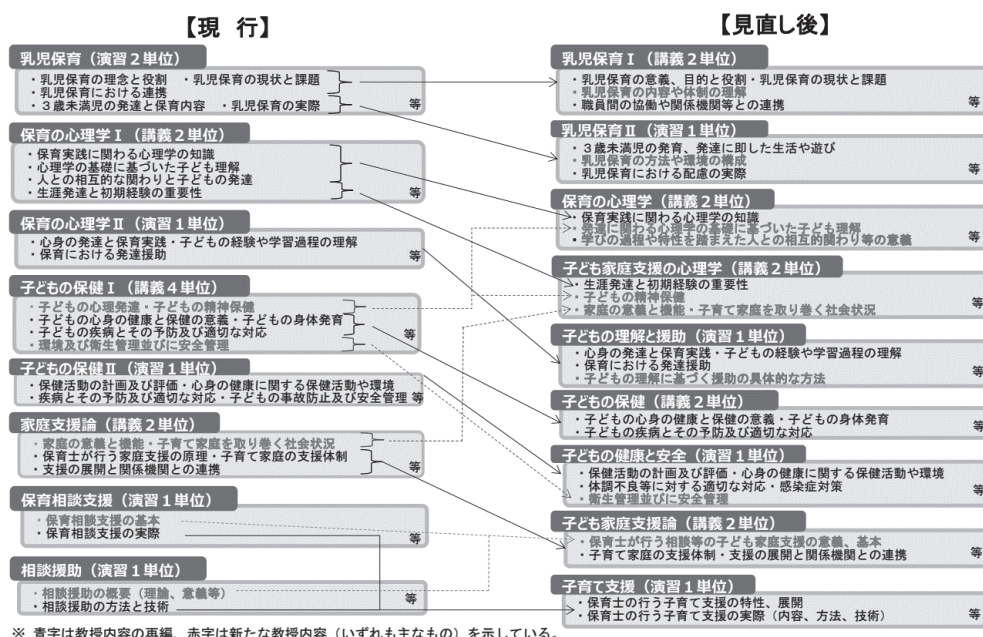


図1. 出典：2017年12月 保育士養成課程等検討会
「保育士養成課程等の見直しについて（検討の整理）」（概要）

2019年度より実施されている保育士養成のカリキュラムのソーシャルワーク系科目では、『保育士による子育て家庭の支援に必要となる知識の基礎的理解を促進するため、現行の教科目「相談援助（演習1単位）」及び「保育相談支援（演習1単位）」の目標及び教授内容のうち、子ども家庭支援の基本となる事項（意義や役割、保育士としての基本姿勢、支援の体制や内容など）について、現行の教科目「家庭支援論（講義2単位）」の教授内容等と統合し、新たな教科目「子ども家庭支援論（講義2単位）」の教授内容等として集約整理する。なお、現行の教科目「家庭支援論（講義2単位）」の教授内容等のうち、家庭の意義や機能等については、新たな教科目「子ども家庭支援の心理学（講義2単位）」へ移行することにより、子ども及び保護者・家族・家庭の理解について、一体的に習得させる。⁸⁾』とされ、「家庭支援論（講義2単位）」が「子ども家庭支援論（講義2単位）」へ、「児童家庭福祉（講義2単位）」が「子ども家庭福祉（講義2単位）」へ教科目の変更が行われた。

また、『現行の教科目「相談援助（演習1単位）」及び「保育相談支援（演習1単位）」の目標及び教授内容のうち、子ども家庭支援の基本的な事項については、新たな教科目「子ども家庭支援論（講義2単位）」に移行した上で、保育士による子育て支援の特性や実践的な事項（支援の具体的内容・方法・技術、事例検討など）については、新たな教科目「子育て支援（演習1単位）」の教授内容等として、再編整理する。⁹⁾』とされ、「相談援助（演習1単位）」および「保育相談支援（演習1単位）」が、「子育て支援（演習1単位）」、「子ども家庭支援論（講義2単位）」に再編整理された。現在のカリキュラムを表3に示す¹⁰⁾。

表3. 保育士養成課程のカリキュラム

科目名	単位数	科目名	単位数
＜教養科目＞		＜必修科目＞	
外国語（演習）	2以上	保育内容総論（演習）	1
体育（講義）	1	保育内容演習（演習）	5
体育（実技）	1	保育内容の理解と方法（演習）	4
その他	6以上	乳児保育Ⅰ（講義）	2
＜必修科目＞		乳児保育Ⅱ（演習）	1
保育原理（講義）	2	子どもの健康と安全（演習）	1
教育原理（講義）	2	障害児保育（演習）	2
子ども家庭福祉（講義）	2	社会的養護Ⅱ（演習）	1
社会福祉（講義）	2	子育て支援（演習）	1
子ども家庭支援論（講義）	2	保育実習Ⅰ（実習）	4
社会的養護Ⅰ（講義）	2	保育実習指導Ⅰ（演習）	2
保育者論（講義）	2	保育実践演習（演習）	2
保育の心理学（講義）	2	＜選択必修科目＞	
子ども家庭支援の心理学（講義）	2	保育に関する科目	※1
子どもの理解と援助（演習）	1	保育実習ⅡまたはⅢ（実習）	2以上
子どもの保健（講義）	2	保育実習指導ⅡまたはⅢ（演習）	1以上
子どもの食と栄養（演習）	2		
保育の計画と評価（講義）	2	計	79以上

単位数は設置単位数

※1「保育実習Ⅱ又はⅢ」及び「保育実習指導Ⅱ又はⅢ」を合わせて、18単位以上。

（2017年12月「保育士養成課程等の見直しについて」を基に筆者作成）

6 保育士養成におけるソーシャルワーク教育の必要性

保育士養成におけるソーシャルワークの必要性については、これまでも問われてきた。

林は、1952（昭和27）年、1962（昭和37）年、1970（昭和45）年の厚生省告示教科目の変遷をまとめ、全体の単位数の削減、「保育内容」系の教科目数と単位の増加、「福祉」系の科目の削減、「保育実習」の単位数の削減を挙げている。特に「福祉」系列の単位の削減は最も重要なポイントとし、保母（現在の保育士）は、社会福祉の専門職であるということをしどこまでも忘れてはいけないと指摘している¹¹⁾。

森合は、保育に関する学びに加えてソーシャルワークやケアマネジメントなどの専門性を確立することが必要であると述べている¹²⁾。

鈴木は、2010（平成22）年のカリキュラム改正で、「相談援助」と「保育相談支援」の目標を掲げ、『両科目を通じて、相応のソーシャルワーク機能をもつ独自の「保育ソーシャルワーク」を学ぶことが求められている。』¹³⁾』としている。

武藤は、2018（平成30）年の新カリキュラム検討会の動向を検討し、ソーシャルワークの重要性が話し合われながらも、授業内容面での充実の提案だけにとどまっていると指摘し、ソーシャルワークを専門とする福祉系教員が中心となり、授業内容の質の充実が重要であると述べている。さらには、今後の保育士養成カリキュラムの見直しに備えておく必要があるとしている¹⁴⁾。

2018（平成30）年に発表された「保育所保育指針解説」において、『子育てに対する不安や地域における孤立感などを背景に、子どもや子育てに関する相談のニーズも増大している。そうした中、市町村や児童相談所等においては、子どもの福祉を図り権利を擁護するために、子育て家庭の相談に応じ、子ども及び子育て家庭の抱える問題やニーズ、置かれている状況等を的確に捉え、個々の子どもや家庭にとって最も効果的な援助を行っていくことが求められている。保育所における子育て家庭への支援は、このような地域において子どもや子育て家庭に関するソーシャルワークの中核を担う機関と、必要に応じて連携をとりながら行われるものである。そのため、ソーシャルワークの基本的な姿勢や知識、技術等についても理解を深めた上で、支援を展開していくことが望ましい。』¹⁵⁾『少子化や核家族化、地域内におけるつながりの希薄化が進む中で、子育てをする上で孤立感を抱く人や、子どもに関わったり世話をしたりする経験が乏しいまま親になる人も増えている。子どもや子育てについての知識がないために、適切な関わり方や育て方が分からなかったり、身近に相談や助言を求める相手がおらず、子育てに悩みや不安を抱いたり、子どもに身体的・精神的苦痛を与えるような関わりをしたりしてしまう保護者もいる。こうした保護者に対しては、保育士等有する専門性を生かした支援が不可欠である。保育士等は、一人一人の子どもの発達及び内面についての理解と保護者の状況に応じた支援を行うことができるよう、援助に関する知識や技術等が求められる。内容によっては、それらの知識や技術に加えて、ソーシャルワークやカウンセリング等の知識や技術を援用することが有効なケースもある。』¹⁶⁾』と、保育士におけるソーシャルワークの必要性が示されている。

7 教科目「社会福祉」における目標及び教授内容

現行の教科目の目標及び教授内容ではソーシャルワークという言葉が消失し、相談援助という言葉が使われている。松原らは、『「相談援助」はソーシャルワークのミクロレベルの実践であり、友人や家族、同僚同士での「相談」とは違う意味でつかわれている。友人や家族間で行われる個人的な関係での「相談」に対して、「相談援助」はトレーニングを受けたソーシャルワーク専門職との線的な関わりの中で、何らかの問題解決などの目的をもって行われる。その特徴を、①人と問題を理解する視点、②利用者との関係、③プロセスの重視¹⁷⁾』としている。すなわち、相談援助はソーシャルワークの中の、一つの技法であり、一定の教育を受けた者によるソーシャルワークであると言える。

2018（平成30）年に教科目「相談援助」の見直しが行われ、現行の教科目において、教授内容に相談援助が含まれる科目には、「社会福祉」「社会的養護Ⅱ」がある。

「社会的養護Ⅱ」での相談援助は、改正前のソーシャルワークが相談援助に置き換えられたものである。また、相談援助の内容は、社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践とされており、社会的養護に関わるものに限定されている。

2018（平成30）年のカリキュラム改正により見直された「社会福祉」の目標及び教授内容を表4に示す¹⁸⁾。改正前の目標「2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する」が、現行では「1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する」となった。また、「4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する」が「3. 社会福祉における相談援助について理解する」と「4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する」に分けられた。内容については、「2. 社会福祉と児童家庭福祉」が削除され、「1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷」の（3）として、「子ども家庭支援と社会福祉」が加えられた。また、現行では「3. 社会福祉における相談援助」に、「（1）相談援助の理論、（3）相談援助の対象と過程」が追加され（2）の「相談援助の意義と原則」が「相談援助の意義と機能」に変更された。さらに、社会福祉の動向と課題の「（1）少子高齢化社会への対応」が「少子高齢化社会における子育て支援」に変更され、「（3）保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク」が削除され、「（2）共生社会の実現と障害者施策」が追加されている。

8 考察

ソーシャルワークの最近の動向として、ジェネリックソーシャルワークの考え方が提唱されている。ジェネリックとは、「一般的、包括的」という意味である。1990年代以降、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの3つの主要技術を統合した総合かつ包括的なソーシャルワークとして、利用者の社会生活の全体性をふまえた支援の実施が求められている。その一方で、スペシフィックソーシャルワークも必要とされている。スペシフィックとは、「特定の、特定の目的をもつ」という意味である。特定の専門的な

表4. 教科目「社会福祉」の目標及び教授内容の新旧対照

現 行	改正前
【保育の本質・目的に関する科目】	【保育の本質・目的に関する科目】
<p><科目名>社会福祉（講義・2単位）</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. <u>社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。</u> 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の理念と概念 (2) 社会福祉の歴史の変遷 (3) <u>子ども家庭支援と社会福祉</u> 2. 社会福祉の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の制度と法体系 (2) 社会福祉行政と実施機関 (3) 社会福祉施設 (4) 社会福祉の専門職 (5) 社会保障及び関連制度の概要 3. 社会福祉における相談援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) <u>相談援助の理論</u> (2) <u>相談援助の意義と機能</u> (3) <u>相談援助の対象と過程</u> (4) 相談援助の方法と技術 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報提供と第三者評価 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決 5. 社会福祉の動向と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) <u>少子高齢化社会における子育て支援</u> (2) <u>共生社会の実現と障害者施策</u> (3) 在宅福祉・地域福祉の推進 (4) 諸外国の動向 	<p><科目名>社会福祉（講義・2単位）</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。 3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の理念と概念 (2) 社会福祉の歴史の変遷 2. 社会福祉と児童家庭福祉 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉 (2) 児童の人権擁護と社会福祉 (3) 家庭支援と社会福祉 3. 社会福祉の制度と実施体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉の制度と法体系 (2) 社会福祉行政と実施機関 (3) 社会福祉施設等 (4) 社会福祉の専門職・実施者 (5) 社会保障及び関連制度の概要 4. 社会福祉における相談援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の意義と原則 (2) 相談援助の方法と技術 5. 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報提供と第三者評価 (2) 利用者の権利擁護と苦情解決 6. 社会福祉の動向と課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 少子高齢化社会への対応 (2) 在宅福祉・地域福祉の推進 (3) 保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク (4) 諸外国の動向

(保育士養成課程等検討会 2017年12月4日「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」を基に筆者作成)

分野での固有の課題の解決や援助に当たる専門家の養成も必要とされている¹⁹⁾。

保育士養成においては、教科目名「社会福祉援助技術」、「相談援助」、「保育相談支援」がカリキュラムから消失し、ソーシャルワークを学ぶ機会が減少しているように見える。しかし、教授内容では子ども家庭支援や、子ども・子育て支援という保育士に求められるソーシャルワーク教育は充実されている。保育系科目で、保育士特有のスペシフィックソーシャルワークを学んでいるといえる。教科目「社会福祉」では、相談援助の概要が教授内容に加えられ、相談援助の基礎も含め、専門性の深い、ソーシャルワークの理論と実践について教授する必要がある。保育士には、相談援助も含めた、子どもと家庭への支援、さらには地域への支援が求められている。「社会福祉」の教授内容において、社会福祉の歴史や制度面の教授も必要であるが、相談援助の単元が増加したことから、ソーシャルワーク教育にも一定の時間を費やす必要がある。そして、各科目と連動して、ソーシャルワークの技術を身につけた保育士の養成が必要である。さらに、ジェネリックソーシャルワークを学ぶことにより、より保育士として専門性の高いスペシフィックソーシャルワークの実践が可能であると考ええる。

9 おわりに

本研究では、改めて、保育士養成課程におけるソーシャルワーク教育の必要性を確認することを目的とした。保育士は戦後最初の社会福祉専門職として誕生したとされている²⁰⁾。保母養成開始当初から、ソーシャルワーク系科目が教科目として設定されていたことから、ソーシャルワークの必要性は求められている。カリキュラムの改正により、教科目名称の変更はあるが、各科目の教授内容では、子ども家庭支援や子ども・子育て支援、相談援助といった、保育士に必要なソーシャルワーク教育は行えていることが確認できた。さらに、保育士養成課程における、筆者が担当する教科目「社会福祉」では、相談援助（ソーシャルワーク）の基礎やジェネリックソーシャルワークの教授が必要である。また、他科目と連動した子ども家庭支援も視野に入れたソーシャルワーク教育を行うことが重要である。「社会福祉」を担当する筆者としては、各科目との整合性を取りながら、より専門性の高い保育士の養成を行っていく必要があることが確認できた。また、保育士は社会福祉専門職であり、対人援助に関して専門性を有した資格である。同じく社会福祉専門職である、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の養成課程におけるカリキュラムの動向にも注視しながら、保育士養成課程において、時代に応じたソーシャルワーク教育を行っていききたい。

引用・参考文献

- 1) 日本ソーシャルワーカー協会, <http://www.jasw.jp/about/global/>, 2023-7-20最終アクセス.
- 2) 第1回保育士養成課程等検討会 平成21年11月16日, 「保育士養成の見直しの経緯」, <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/dl/s1116-7d.pdf>, 2023-7-28最終アクセス.
- 3) 第1回保育士養成課程等検討会 平成21年11月16日, 前掲2)
- 4) 林俊光 (1986), 「保母養成に関する一考察」, 『佛教大學大学院研究紀要』, (14) 55-73.
- 5) 鈴木久美子 (2015), 『保育士養成課程における「相談援助」科目に関する研究』, 「常葉大学短期大学部紀要」, (46), 105-118.
- 6) 保育士養成課程等検討会 平成22年3月24日, 「保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)」, https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0324-6a_0001.pdf, 2023-7-28最終アクセス.
- 7) 保育士養成課程等検討会 平成22年3月24日, 前掲6)
- 8) 保育士養成課程等検討会 2017年12月4日, 「保育士養成課程等の見直しについて～より実践力のある保育士の養成に向けて～(検討の整理)」, https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/houkokusyo_1.pdf, 2023-7-28最終アクセス.
- 9) 保育士養成課程等検討会 2017年12月4日, 前掲8)
- 10) 保育士養成課程等検討会 2017年12月4日, 前掲8)
- 11) 林 (1986), 前掲4)
- 12) 森合真一 (2014), 『保育政策の歴史的展開と保育士養成』, 「近畿大学豊岡短期大学論集」, (11), 1-9.
- 13) 鈴木 (2015), 前掲5)
- 14) 武藤大司 (2020), 『保育士養成カリキュラム改正におけるソーシャルワーク関連科目の論点整理』, 「安田女子大学紀要」, (48), 107-116.
- 15) 厚生労働省 平成30年2月「保育所保育指針解説」, <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000202211.pdf>, 2023-7-28最終アクセス.
- 16) 厚生労働省 平成30年2月, 前掲15)
- 17) 松原康雄ほか (2023), 『新基本保育シリーズ 社会福祉 第2版』, 中央法規出版, 92-102.
- 18) 保育士養成課程等検討会 2017年12月4日, 「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」, <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/betten1.pdf>, 2023-7-28最終アクセス.
- 19) 橋本好市ほか (2023), 『保育と社会福祉 第3版』, みらい, 189-190.
- 20) 成清美治 (2016), 「介護福祉士の専門職化と養成の課題」, 『神戸親和女子大学福祉臨床学科紀要』 (13), 99-115.